

今後のまちづくりの提案や広聴のあり方の検討について(素案)

令和元年10月28日

寺泊支所地域振興課

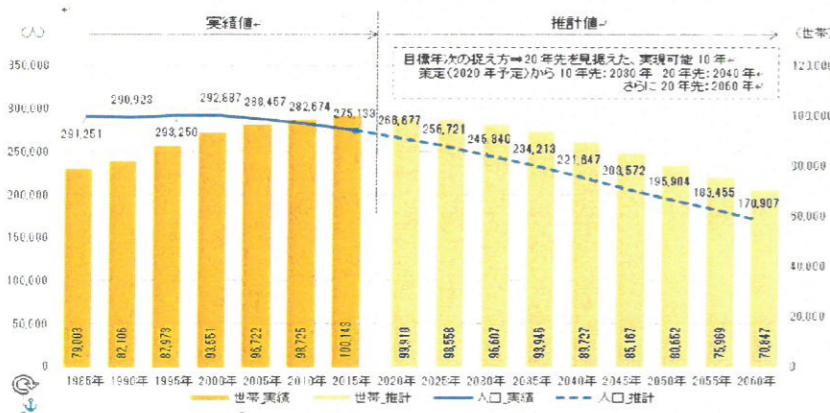
1 主旨

[主旨]
 地域の代表機関として活躍してきた地域委員会のこれまでの活動を振り返るとともに、地域の現状と課題を総合的な視点から照らし合わせながら、今後の地域づくりに相応しいまちづくりの提案や広聴機能の形について、幅広く議論していただきたい。

[背景]
 ○合併後、支所地域におけるまちづくりの検討や広聴の代表機関として、地域委員会を設置
 ○15年にわたり、地域における振興策や生活課題への対応などを議論。ふるさと創生基金事業や地域の宝磨き上げをはじめ、少子化を背景とする小学校や保育園の統合、交通対策、コミセンの開設、新たな活動の誘発など、様々な成果を創出してきた。
 ○一方、いずれの地域においても人口減少、高齢化は着実に進んでおり、地域の担い手不足はいずれの地域においても懸念されている。
 ○そのようななか、地域には区長会や総代会、コミセン協議会など住民代表が集う様々な組織が存在し、広聴機能の効率化を求める意見も散見されるようになってきた。
 ○また、若い世代の多様な活動が芽生えている地域もあるなかで、次代を担う若者の意見を積極的にまちづくりに活かすことが、地域の活力維持につながるという意見も聞かれる。

2 寺泊地域の現状と課題

(1) 全市人口及び世帯数の推移と将来見通し



※寺泊地域の震災前後の比較

| | 人口 (人) | 高齢化率 (%) |
|------------------|-----------|-------------|
| H16.4.1 (震災前) | 11,864 | 27.8 |
| H31.4.1 (震災後) | 9,286 | 37.6 |
| 増減 | ▲2,578 | 9.8 |

(2) 地域の主な課題

- ・各種団体の連携が必要である。
- ・交通空白地域の生活交通体制の確保が必要である。
- ・77集落中43集落しか寺泊区長連合会に加盟しておらず、地域全体を合意形成する組織がない。
- ・往診や死亡診断をしてくれる医師の要望が多い。(医療体制の整備)

(3) 広聴組織、団体の状況等

- ・てらどまり若者会議～波音～が立ち上がり、自主企画のイベントなどの活動を行っている。
- ・コミセンの各種部会においてまちづくりに関する話し合いを行っている。
- ・市が主催する町内会長・区長会議(年1回)及び寺泊区長連合会で住民の意見や要望を集約している。

3 寺泊地域委員会が果たしてきたまちづくりへの提案・広聴機能

まちづくりへの提案や広聴機能において、地域委員会が果たしてきた役割や成果を記入してください。

[まちづくりの提案]

- ・施設の老朽化と子供の減少、今後ますます多様化する保育ニーズに対応するため、地域委員会で検討した結果を要望書として提出したことにより、4保育園の統合が実現した。
- ・地域の課題となっていた少子高齢化や生活交通対策などについて、地域委員会で協議を重ね、市に生活交通対策の要望書を提出した。(現在検討中)
- ・少子化対策と子育て支援を分科会で議論し、若者と意見交換をしいった結果、若者で構成された地域活動団体「てらどまり若者会議～波音～」が結成された。

[広聴機能]

- ・公共交通空白地域の現状を把握するため、地域委員会で住民アンケート(H28)を行った。
- ・都市計画マスタープランや防災行政無線などの説明をした際に、今後の進捗に参考となる貴重な意見が得られた。

4 今後の検討テーマ(案)

次のテーマについて幅広く御意見をいただきたい。

○まちづくりに関する地域住民の意見・提案をお聞きする「広聴の仕組み」として

相応しい形は

○多様な地域課題に対し、実のある検討を柔軟に行う「検討の仕組み」として

相応しい形は